

土器川の河川環境整備

土器川下流部の河川敷には運動公園、公園、親水施設などが整備されており、年間を通じて多くの人々が利用する都市近傍のスポーツ、憩い、環境学習の場となっています。

土器川の直轄河川環境整備事業が始まったのは昭和 46 年度からでした。国による高水敷の整備が行われる一方で、昭和 51 年には香川県により敷地面積 18.6ha の川西運動公園（土器川公園）が整備されたほか、丸亀市や満濃町（現まんのう町）など自治体により公園施設が整備されました。また、香川県の大規模自転車道整備事業により、丸亀市を起点とし、土器川沿いを通り、観音寺市を終点とする延長 36km の自転車道が整備され、平成元年に県道丸亀琴平観音寺自転車道線として指定されました。

土器川川西地区（河口から左岸 5.8～7.9k）では、平成 11～12 年度に国により環境整備事業が行われました。この事業は、既設の土器川公園と大規模自転車道を合わせて、広がり多様性を備えた河川空間を整備することを目的としたものです。堤内の盛土により平地が確保され休憩施設が整備されるとともに、堤外護岸が緩傾斜で緑化され、観客席を兼ねた幅広階段が設置されて、身障者にとっても自転車にとっても安全で緩くて広い坂路が整備されるなどしました。また、関連事業として、平成 12～13 年度には丸亀市により防護柵、歩道、照明灯、樹木植栽が施工されました。

平成 5 年度から平成 21 年度にかけては、土器川総合水系環境整備事業が行われました。これは平成元年に策定された土器川水系河川環境基本計画を踏まえて、高柳橋から天神床止工までの中流ブロックで、豊かな自然環境を残しながら水辺に安全に近づける河岸や護岸を整備し、流域の人々が土器川の自然環境と親しむことができる環境づくりを目指したものでした。国と地元自治体の共同事業により、高柳地区（右岸 6.9～7.2k）の水辺の楽校（Doki！土器パーク）には郷土の治水・利水の史跡を活かした自然とふれあえる空間や体験学習の場がつけられ、垂水地区（左岸 8.6～9.3k）の土器川生物公園には多様な生物の生息・生育空間や親水空間が創出され、長尾地区（左右岸 14.5～15.1k）の長尾ふれあいパークには親水活動と沿川施設が連携した 3 世代交流の場や環境学習の場が整備されました。

このように土器川下流部の河川敷には多くの河川利用施設が整備され、これらは大規模自転車道や堤防道路のネットワークでつながれており、スポーツや憩い、環境学習の場などとして多くの人々に利用されています。これからも土器川の河川環境や景観が大切にされて、土器川の水辺が多くの人に利用されていくことでしょう。

<参考文献：四国の建設のあゆみ編纂委員会編「四国の建設のあゆみ」1990 年、四国地方整備局事業評価監視委員会資料、国土交通省四国地方整備局編「土器川水系河川整備計画－土器川の河川整備（国管理区間）－」2012 年など>

